

## (公社) 日本山岳会栃木支部夏山山行報告書

1. 期 日：令和4年8月27日(土)～29日(月)
2. 山 名：尾瀬沼周辺及び燧ヶ岳
3. 参加者：渡邊雄二、高野正道、長百合子、菱田克彦、猿山浩、石井シモ子、大島健一、村田美代  
ゲスト：内山昭夫、神長善次、神長純江、斎藤一興、藤川裕子
- 4 ; 行動記録

8月27日(土) 曇り

11:00 会津鬼怒川線「上三依塩原温泉口駅」に高野を除く12名が集合し、御池駐車場まで4台の車で計画輸送をした。

12:50 御池駐車場に着き、高野と合流した。各自身支度をし、13:10 発の沼山峠休憩所行のシャトルバスに乗り込んだ。

13:40 沼山峠登山口から登山開始。ゆるやかで短い行程なので、道端の花などを見ながら、のんびりと木道を歩いた。

14:30 大江湿原に出る。ミヤマシシウドやオクトリカブトなど多くの花が咲き乱れており、尾瀬に来たという実感がわいた。右手には燧ヶ岳がシルエット状に見えた。

15:00 尾瀬沼湖畔の長蔵小屋に着いた。我々が宿泊するのは長蔵小屋別館。豪華な夕食(ハンバーグステーキ)をいただき、綺麗な風呂に入り、翌日の行動に備えて懇親会を早々に切り上げて、就寝した。

夏の尾瀬とは思えないほど人が少ない。新型コロナウイルスの影響はここにも大きく出ている。

8月28日(日) 曇り時々小雨、夕方から晴れ

4隊に分かれて、行動した。

A隊(渡邊、菱田、村田、斎藤、高野)5名

7:00 D隊とともに、長蔵小屋を出発し、燧ヶ岳を目指した。浅湖(あざみ)湿原の手前から長英新道に入った。しばらくはゆるやかな登りが続く。道端にリンドウが多くあったが、標高の低い所から高い所まで、つぼみであった。

8:40 4合目(1900m)手前で小休止。そこからは電波が通じた。

9:30 ミノブチ岳に到着。開けて視界がきく場所であり、霧が流れてたまたま日光白根山まで見渡せる瞬間があった。燧ヶ岳山頂(狙ヶ) (まないたぐら) (2346m) がすぐ目の前に見える。もうひと頑張り。

10:05 狙ヶに到着。小さな祠がいくつかある。霧で周囲は全く見えない。30分ほど休憩し、D隊と別れて、双耳峰である燧ヶ岳のもう一つの頂上、柴安ヶ向かう。

10:50 柴安ヶ(2356m)に到着。「燧ヶ岳山頂」と書かれた墓石のような標柱があった。ここも霧の中。

11:05 見晴新道を下る。雨で滑りやすい岩場、田んぼのようになった泥濘地を難儀しながら下って行った。

13:20 見晴と沼尻の分岐に出た。ここから沼尻まではゆるやかな登り基調の道。木道が濡れてとても滑りやすく、注意を払いながら進んだ。

14:45 沼尻平に着くが、ここの休憩所は休業中だった。空気が冷えてきたために水面から立ち上る靄がきれい。

15:35 長蔵小屋に帰着。C隊は先着していたが、B隊は未着。この日も豪華な夕食(チキンの香草焼き)をいただいた。夕食を食べるところから天気は回復し、夕日がとてもきれいで、食後の散歩を楽しんだ。

(菱田記)

## D 隊 (猿山、大島) 2 名

燧ヶ岳山頂 (俎嶺) (まないたぐら) (2346m) までは A 隊に帯同。

10:30 御池へ下山開始。雨で滑りやすくなっている岩礫帯を慎重に下った。以前は雨水で深くえぐられた雨樋状の悪道で、ぬかるみに足を取られ苦戦した記憶がある。が、今はすぐ脇にガレた道が開かれ歩きやすくなっていた。看板やテープに注意しながら旧道の沢に迷い込まないように注意が必要。

11:20 6 合目のプレートを過ぎ、熊沢田代の二つの大きな池に挟まれたテラスで小休止。霧雨の中、視界が開け幻想的な美しさを堪能できた。会津駒ヶ岳もチラ見できた。木道以外は水浸しになっていた。

12:00 広沢田代。近くの池がなぜか乳白色になっていた。火山活動の前兆か。木道は所々修繕されているが、大部分は朽ちかけていて、階段の踏み板もなく危険な箇所が目立つ。沢筋の道は前夜からの雨で水が勢いよく流れ落ちていた。

12:45 御池着。8 月最後の日曜日の昼間なのに広い駐車場に車はまばら。駐車料金は千円。帰路、道の駅尾瀬檜枝岐に立ち寄り、おじさん 2 人でカップアイスを食べながら絵画鑑賞をした。国道 352 号沿いは蕎麦の花が満開でカメラマンの姿が見られた。

14:50 上三依塩原温泉駅解散。竜王峡のバイパスは無料になっていた。

(猿山記)

## B 隊 : 石井、内山、神長善次、純江

7:10 A 隊、D 隊よりやや遅れて、C 隊とともに玄関前のヤナギランに見送られて長蔵小屋を出発する。雨はパラつく程度。

8:30 沼尻休憩所。濡れた木道を慎重に白砂峠を越える。

10:45~11:10 見晴到着。山小屋は 6 軒営業中。昼食休憩する。C 隊は長蔵小屋へ戻る。

12:15 温泉小屋、赤田代は歩きやすい木道、写真を撮りながら湿原の花に癒される。

13:50~14:25 三条ノ滝。展望台への登山道の手すり撤去の作業予定 10 月以降間近に見られなくなるそうです。豪快に水しぶきをあげているのを見られて良かったです。

16:15 第二長蔵小屋。日没を考えながら長蔵小屋まで距離 7.2 km、標高差 250m、コースタイム 3:25 時間を検討、4 名の疲労度、滑りやすい木道をヘッドランプ使用では危険と判断する。小屋のスタッフに連絡をとってもらい宿泊とする。

## 8 月 29 日 (月)

5:00 起床。快晴、朝もやに浮かぶ下田代散策、感激する。

7:00 白砂峠を越え、尾瀬沼北岸、長英新道分岐をたどる。

8:30 沼尻休憩所。

10:20 長蔵小屋で待つ渡邊支部長、皆様方の温かな出迎えに感謝の気持ちで胸が一杯でした。

(石井記)





サワギキョウ



イワショウブ



雨の木道

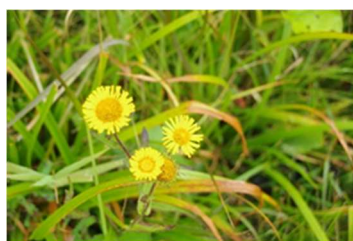


ヤナギラン



C 隊：長、藤川

8月28日朝はBグループと一緒に行動することで出発しました。とても滑りやすい木道は2016年の高い木道から低くなっているので少しは安心して歩きました。左に優雅なガスが掛かっている尾瀬沼を見ました。沼尻休憩所はしまっていた。そこから登りが始まり、白砂乗越からは下りが始まり、U氏が端を歩いて滑ったのを見て慎重に真ん中を歩きました。我々二人は後1~2カ月で80歳と81歳になりますので、転べば骨折と医者に驚かされています。見晴らしにやっと11時過ぎに着きました。Bグループは長蔵小屋のおにぎりを食べていましたが、我々は水分が有る食事がしたかったのですが、尾瀬小屋はうどん、蕎麦等なくスパゲッティ、ウインナーソーセージ等若者向けのメニューです。やっと鹿肉の水餃子を薦められて食べましたが美味しかったです。Bグループは11時半に三条ノ滝を目指して出発していきましたが私たちは16年温泉小屋へ泊って滝を見て御池に下ったので止めました。12時に出発してK氏の真似をして大木の撮影、湿原の撮影など尾瀬を十分味わって3時20分に長蔵小屋へ着きました。



ウサギギク



チョウジギク



8月29日(月) 晴れ

朝から良く晴れて、尾瀬沼、燧ヶ岳がとても美しかった。♪夏がくれば 思い出す はるかな尾瀬  
遠い空♪とつい口ずさんでしまいそうな景色。

10:00 C隊及び村田が長蔵小屋を沼山峠休憩所に向けて出発した。

11:00 残りのA隊はB隊の第2長蔵小屋からの到着を待って出発した。

12:05 全員無事に沼山峠休憩所に揃った。12:20 発御池駐車場息のバスに乗った。御池駐車場で解散した。

(菱田記)

以上